

名勝庭園の概要

松花堂庭園の内園には、僧侶である松花堂昭乗の 17 世紀の草庵、彼の隠居寺の客殿、そして 4～5 世紀の古墳である東車塚古墳があり、それらが巧みに豊かな眺めの中に組み込まれています。この内園は、国の名勝となっています。

松花堂昭乗（1584～1639）は、有名な茶師であり芸術家であり、当時の三大書家の一人とみなされていました。松花堂は彼の雅号であり、「松の花を愛した僧侶の家」という意味合いです。古くは、松の花は千年に一度しか咲かないといわれており、松の花は珍しく美しい出来事の比喻として使われていました。

昭乗は 10 代の頃男山に来て仏門に入り、やがて、かつて石清水八幡宮寺を構成していた数多くの小さな寺院の 1 つであった瀧本坊で、住職にまでなりました。芸術家、公家や大名、そして皇族とのつながりが深かった昭乗は、同時代の文化的に優れた人々を集めて茶の湯を主催していました。昭乗は 50 代半ばに引退し、近くの泉坊に引っ越し、そこで 1637 年に小さな草庵を建て、その草庵を松花堂と名付けました。この建物は住居と茶室を兼ねており、昭乗はここで人を集めることや小さな茶会を開くこと、そして文化的な交流を続けました。

19 世紀末期の政府による神仏分離の後、草庵松花堂と泉坊の客殿は男山から移築されました。これらは何度か移築され、最終的に松花堂庭園内の現在の所在地に組み込まれました。草庵と草庵の庭（露地）、そして男山の元の所在地は、国の史跡です。